

# 下水道事業における地球温暖化防止計画

## 「アースプラン2023」の概要

### 1 本計画の目的

- 下水道局では、下水道事業における地球温暖化防止計画「アースプラン」やエネルギー基本計画「スマートプラン」に基づき、エネルギー・地球温暖化対策を計画的に推進してきた。
- 気候危機が一層深刻化する中、国内外では脱炭素化への動きが加速しており、国や都の新たな動き、更には外部有識者による「下水道カーボンハーフ実現に向けた地球温暖化対策検討委員会」の議論を踏まえ、新たな地球温暖化防止計画「アースプラン2023」を策定した。本計画は、これまでのアースプランとスマートプランを統合して新たな計画とするもので、下水道事業の特性を踏まえて地球温暖化対策とエネルギー対策を一体的に推進することを目的とする。

### 2 2030年カーボンハーフ実現に向けた目標と取組

- 下水道事業では、温室効果ガスとして、電力や燃料等の使用に伴うエネルギー起源の二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に加え、一酸化二窒素(N<sub>2</sub>O)やメタン(CH<sub>4</sub>)を排出している。そのため、温室効果ガスの排出削減にあたっては、エネルギー起源のCO<sub>2</sub>とN<sub>2</sub>O等の削減を総合的に勘案して対策を一体的に推進する必要があることから、目標を次のとおり設定する。

#### 2030年度目標

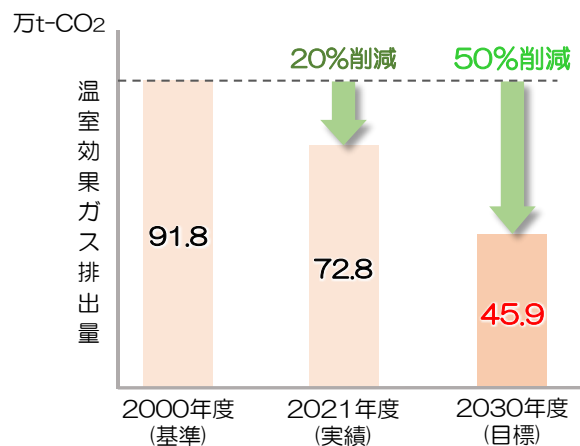
##### 【計画期間】

2023～2030年度

##### 【目標】

温室効果ガス排出量50%以上削減

(2000年度比)



- 2030年カーボンハーフの実現に向けては、これまでのアースプランやスマートプランの取組を加速するとともに、新たに技術開発した設備の導入や再生可能エネルギーの更なる活用などの取組を強化する。

### 3 2050年ゼロエミッション実現に向けたビジョン

- 下水道が持つポテンシャルや下水道資源を最大限に活用し、以下の取組を推進する。
  - ・ エネルギー供給型（カーボンマイナス）焼却炉やAIを活用した送風量制御技術等、更なる先進技術の導入推進
  - ・ ペロブスカイト太陽電池やネガティブエミッション技術等、革新的技術の開発・導入



ゼロエミッション実現に向けたビジョン

- 下水道事業の境界（バウンダリー）にとらわれず、下水熱等の下水道資源を利用した取組を推進することで、社会全体のゼロエミッションの実現に貢献する。